

プログラミング基礎

(5) 式・メソッドの返り値

+ 三角形の面積を求める

- まず・・・新しいパッケージ(shape)を作る
- その中にオブジェクト (Triangle) を作成する

```
public class Triangle {
    int base, height;
    void setDimension(int b, int h) {
        base = b;
        height = h;
    double getArea() {
        double area = base * height * 0.5;
        return area;
```

+メインを作る

■ Main というオブジェクトを同じ shape パッケージに作成

```
public class Maim {
    public static void main(String[] args) {
        Triangle tri1 = new Triangle();
        tri1.setDimension(5,10); // 底辺 5, 高さ 10
        double a = tri1.getArea();
        System.out.printf("[1] %f", a);
    }
}
```

+

メソッドからの戻り値 メソッド側の表記

- メソッドから呼び出し元に返すデータ
 - メソッドの名前の前にデータの"型"を指定
 - メソッドからは「return」文で戻す

メソッドの戻り値の"型"

```
public class Triangle {
    (当略)
    double getArea() {
        double area = base * height * 0.5;
        return area;
    }
}
```

メソッドからは return 文で戻す

+

メソッドからの戻り値

呼び出し側の書き方

■ 変数の中身(データ)が受け渡しされる(引数と同じ)

```
public class Maim {
    public static void main(String[] args) {
        (省略)
        double a = tri1.getArea();
        (省略)
    }
}
```

メソッドからの戻り値を変数 a で受け取る

+

複数のオブジェクトを作ってみる

■ Mainオブジェクト(Main.java)を以下のように変更してみる

* 演習1

- 閏年を計算するオブジェクト LeapYear を作ってみよう
- 閏年の条件は次の通り
 - 400で割り切れる年は閏年
 - 100で割り切れる年は閏年ではない
 - 4で割り切れる年は閏年
- 割り切れるかどうかの判断には剰余(%)演算子を使う 【例】int b = a % 10; ← b には a を 10 で割った余りが入る ※ 余りが 0 なら割り切れたことになる
- できたら動作を確認する Main オブジェクトも作成してみよう

+ 演習2

- 2009年の日付を入れると曜日を番号で返すプログラムを作成
 - 月曜日を1, 火曜日を2・・・とする
 - 2009年1月1日は木曜日(4)
- ■考え方
 - 1月1日からの日数を数え、7で割った余りに4を足す